

ごあいさつ

国立大学法人鹿屋体育大学
スポーツパフォーマンス研究センター センター長

前田 明

令和3年度鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス研究センターの活動実績をご報告いたします。今年度も、本センターは新型コロナウイルスの影響を受け、難しい対応を迫られる一年でした。しかしながら、無観客で開催されたオリンピック・パラリンピック東京大会の前後に、本大会で活躍したアスリートの皆さんが本センターを訪れてくれるなど、嬉しいニュースもありました。誠にありがとうございました。

一方、まだ学内メンバーが中心ではありますが、研究活動は徐々に再始動し、研究成果が集まりつつあります。スポーツ活動の実践的研究であるスポーツパフォーマンス研究は、現場での、または現場に近い設定でのパフォーマンスの変化を確認していく研究が多いことから、どうしても対面でのデータ取得が必要になります。本センターでも三密回避を工夫しながら、活用できるようになってきたように思います。状況をご理解いただき、協力いただきました、研究者、アスリート、指導者の皆さんに感謝申し上げます。

ご存じの通り、令和3年度は、国立大学にとりまして第3期の最終年度という節目に当たりました。コロナ禍において第3期のまとめを行うことには、難しく、不本意なこともとありましたが、関係者の皆さんのおかげでなんとかこのような報告書をお届けすることができます。第4期に突入する令和4年度から、本センターも新たなメンバーで新たな目標を掲げて頑張っ参りますので、今後どうぞよろしくお願ひいたします。

